

シャープ・ハンディブレイン RZ-F300シリーズ

移動販売、カード決済を可能にした 高効率「モバイルPOS」サービス

仮設店舗やイベント出店にも使えて、カード決済のできるもの。そんなユーザーの要望に応じて、愛知県にある企業内売店での春から活用されているのがハンディターミナル端末「シャープ・ハンディブレイン」だ。システムを構築したのは流通ソリューションをサポーターするウェブスペース㈱。当初の目的だけでなく、昼時の混雑を効率的にさばく効果も生まれ、現在、予想以上の好評を博している。



女性でも片手にすっぽりはまる大きさ
にカードの読み取りも裏面で行う

ユーザーニーズへの戦略

利便性を広げたいうえで、
昼時の混雑解消、効率化をはかる

シャープの「ハンディブレイン」が実際に使用されているのは、愛知県刈谷市にある幹サンパレーが委託運営を行うトヨタ系工場内の売店。広い敷地内で数千人の社員が働く同工場では、業務前の朝とランチタイムの1日に2回、売店混雑のピークを迎えるという。

具体的に朝の7時から8時の間に500人余、昼の12時から1時の間には700〜800人の社員が1ヶ所の売店に押し寄せるため、以前はレジが3台あっても並ぶ列は相当なものであった。そこで、待ち時間のロスをなくしてスムーズにお客をさばくために「仮設売店の設置を」という声が前々からあっていたという。そうした仮設売店、さらには地域視察を図るためのイベントでの出店にも利用でき、「現金だけでなく社員のカード決済ができるシステムを作りたい」というのが、幹サンパレーからウェブスペース㈱にだされた要望だった。

「ICカードでの決済自体は、今やどこかのPOS端末でもできますが、固定売店でも仮設売店でも使えて、給料から天引きできる」といった条件で考えて選んでいった結果、このハンディブレインに行き着きました。」と、ウェブスペース㈱システム管理部、シニアマネージャーの佐藤氏。

企業内売店の限られた敷地において、レジの台数やレジを置くスペースを増やして

混雑を緩和させるよりも、省スペースでなおかつ移動が手軽にできるハンディターミナルを使った「モバイルPOS」サービスのほうが、これからのことを考えるとより効率的と考えたうえで着地点だった。

「機種選択の決め手となったのは、画質で壊れにくく、バッテリーも長持ちするといったこと。忙しい現場では扱いが難になることもありますが、混雑時の途中で使えなくなってしまうのは困ります。また、マイフェアとフェアカの2種類のICカードに対応していることも理由の一つです。それにシャープさんはICカードリーダーをいちはやく搭載して、それを動かす実績もありましたので、他の類似品も調べましたが、いちばん信頼できると判断しました。」

システム構築の経緯

様々な角度からの調査で
ニーズのさらに上を目指す

ウェブスペース㈱の主な業務は3本の柱から成り立っている。一つはDocuNet(販売管理と受発注を主体とした流通、情報処理のシステム化サポート)、もう一つがMMK(コンビニ等での公共料金収納代行サービス)、そしてADM(駅やマンションでのWebロッカー事業)。今回はそのDocuNetの既存ユーザーからの声掛けからスタートしたとのことだ。GOサインが出てからは、導入までの行程を一気に進めた。

「ユーザー様からお声を掛けていただいたのが昨年度の夏。その後様々な調査、打ち合わせを経て、開発に入ったのは今年に入ってからでした。テスト期間を含めて開発に要した時間が約2ヶ月間で、ユーザー様にお納めしたのが4月のゴールデンウィーク前でした。」

開発期間もスピーディだったが、納入して売店で使い出したのが、その翌日だったというのも驚きだ。そこにはシステム構築までの、あらゆる角度からのリサーチが活かされている。

「極力、画面は簡素化しました。間違い

を無くすという意味もありますが、混雑時にはお客さまひとりあたりにかける時間が秒単位でなければならない。難しい機能はあえて省きました。」というのは、システム開発に加わった幹ソフトウェアの川上友弘氏。金額が表示された後はすぐに最初の読込画面に戻る。

「売店の横が食堂で、多くの方が売店で購入されるのは飲み物やアイス、お菓子類です。だいたい2品くらいを手にとって、袋も必要としないで持っていかれる。同じものを複数買うお客様もほとんどいません。」そこで、普通のPOS端末についているような、割引、返品といったような機能をなくし、処理時間短縮を最優先した。

今のところはまだまだすでに既設の固定売店で活用されているが、近い将来は仮設店舗やイベントでも使用される予定だ。

現場での反響

操作性の容易さで、
不要なミスをなくす

4月末に現場で売店スタッフに直接、操作方法を指導したのがウェブスペース㈱の飯島氏だ。

「それまでの固定レジからの切替に要した時間は、新システム開始前日の1〜2時間で済みました。スタッフも年配の女性が多いのですが、皆さんすぐに覚えて頂いて、1週間後に改めて見えた時は驚くほど操作スピードがぐんとアップされていました。」スタッフへの指導にも工夫を凝らした。



1ウェブスペース㈱システム管理部の佐藤徳雄氏



ウェブスペース㈱カスタマーサポート部の飯島厚氏

「ハンディタイプですから、画面の大きさには限りがあります。ですので、より見やすくキーの大きさはなるべく大きくしてあります。同じ商品を買う場合はキータッチで個数を打ち込むこともできますが、最初にリサーチをした時点で3個以上同じものを購入する人は稀であると考えていましたので、2個の場合は2を掛けるよりも2回バーコードを読み取ったほうが早いので、間違いがない。ということでスタッフの方に混乱を招かないよう、そのように伝えました。」と、飯島氏。

システムを作る前に現地に行き、求められているのは読み取りの速さ、画面の大きさ、液晶の反応の良さ、持ちやすさ、長時間操作を続けて疲れない、といったことを理解した。次いで操作方法も運用をなるべく混乱させず、短い指導時間で、ミスなく操作できるという観点で伝えられるように徹したという。そのかいあって、売店スタッフにも難なく受け入れられた。

逆に予想がなかったのは、いざ導入されてからの商品を購入のお客様の行動だった。

「お客様はもう慣れてくると、商品のバーコードがすぐに読みとれるように端末に向かって見せて持ってくるのです。ですから、スタッフのほうが商品を持たなくても、片手ですばやく端末を操作してビッ!とスキャンするだけで済んでしまいます。」

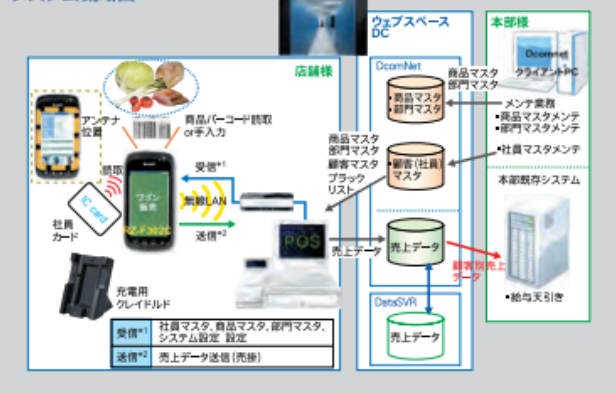
一方で、社員証の読み取りに関しては、腕元にある社員証をわざわざはさずには待っている人も多い。端末を、売店スタッフのほうで胸元まで持っていくことができたためだ。また、社員証を差し出す人と、そのまま受け身で待っている人の二派に分か



①売上カード読み取り画面 ②売上明細入力画面 ③総売り金入力画面

お問い合わせ先 シャープビジネスソリューション株式会社
〒105-0023 東京都港区芝浦1丁目2番3号 シーパンス館 TEL:03-5446-8366 URL:www.sharp-ssp.co.jp

システム概略図



れている。こうしたように固定型レジとは違うモバイル端末ならではの利点も生まれているとか。

ハンディ端末の特長

機器の特性を最大限に
活かすために

シャープの「ハンディブレイン・RZ-F300」は小売業や物流業界の現場で、商品管理、発注、在庫照会などを目的とした業務用端末機だ。従来型のようなテンキーをなくし、4.3型タッチパネル液晶を搭載、コンパクトなデザインながら、使いやすさと見やすさを追求している。

「後ろにストラップがついていて、ちょうど手の平にすっぽりはまる大きさ。ICカードや商品バーコードなどは全て表側とサイドで読み取りますので、繁忙時にはめたまま片手で作業ができます。」

200万画素のカメラは裏側についているが、売店で使うICカードリーダーやバーコードスキャナーの利用はいずれも表側で行う。また、非常に軽いため、昼時の1時間、はめたままでも疲れを感じないとのこと。売店では昼を過ぎるといったん充電機に戻しているが、大容量バッテリーにより約21時間の連続駆動が可能であるため、移動販売などで外に持ち出して充電の心配はないそうである。

その他に、遠方へのリアルタイムでのデータ送信ができる3G通信、GPS機能なども備わっている。モバイルPOSサービスの利用形態は、単に効率を上げるだけでなく、医療や高齢化社会の様々な場所で切実に求められている。

今後の展開

病院内の患者さんのための
ベッド周辺のワゴン販売も

今後の方向性としては、決済と同時にリアルタイムに売上や在庫のデータを活用することだという。「ハンディターミナルの用途自体は、もともと在庫照会や棚卸しといった数をチェックする機能を主としています。この機能を使わない手はありません。バーコードを読み取ったと同時に、その結果が本部に送信されて売れ筋や在庫が見えるようにもっていくつもりです。」と、佐藤氏。

現在、すでに決済と同時に販売状況のデータ解析もできるようなシステムに着手しているとのこと。そしてもうひとつ、近い将来の実現化を目指しているのが高齢化での需要が高まる現場での活用だ。

ウェブスペース㈱の業務のなかには病院関係の売店も多く含まれている。当然、病院方面への話術拡大は視野に入れている。

「もともとはそちらの発想の方が先でした。というのも、入院をされている方すべてが売店に足を運ぶわけではありません。看護士さんに頼んで代理で購入してもらいたいというケースも多くあります。病室に現金を置かないという要望もあります。それこそワゴン販売のような形で病室を回って、手にとりて品物を選んで、カードで購入できるといった便利なのではないでしょうか。買い物だけでなく、公共料金の支払いなどもできるようになったらいいですね。」と、佐藤氏。病院関係でのシステム構築は同社の「社会に貢献するシステムとサービスの実現」という企業理念にも沿っている。モバイルPOSサービスの利用形態は、単に効率を上げるだけでなく、医療や高齢化社会の様々な場所で切実に求められている。



1時貸で700〜800人のお客様に対応する工場内売店